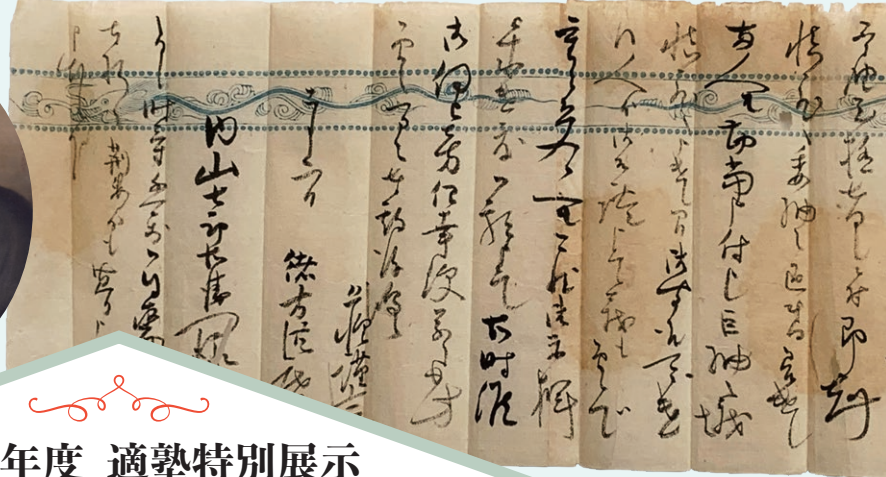




令和7年度 適塾特別展示

シリーズ生誕200年記念～その肆

箕作秋坪

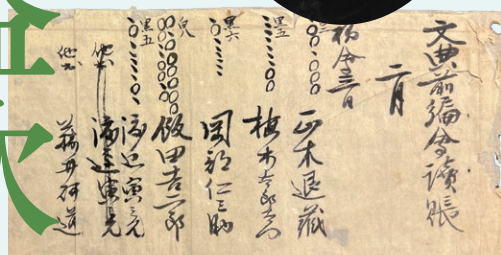
Mitsukuni Shubei

伊藤慎蔵

Ito Shinzo

大村益次郎

Omura Masujiro



Born in 1825

令和7年(2025)

5.27(火)
— 6.8(日)

「会場」適塾 (史跡・重要文化財)
開館時間: 10時～16時
541-0041 大阪府中央区北浜3-3-8
一般 400円(300円)、学生 200円(100円)
※()内は20名以上の団体料金、要事前申込み、詳細はホームページ参照
※学生は、大学生、高校生又はこれらに準ずる。
小学生・中学生 無料 ※中学生以下の方は引率が必要
大阪大学の学生 無料 ※要学生証提示



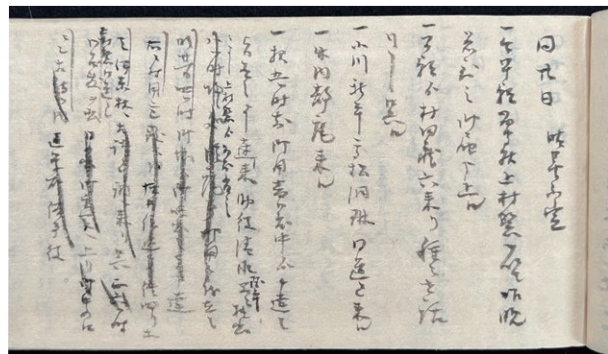
文政8年(1825)、適塾門下生の大村益次郎、伊藤慎蔵、箕作秋坪等が生まれました。今年は彼らの生誕200年です。
大村益次郎は、周防国吉敷郡鏑鏡司村(現・山口市)出身で、弘化2年(1845)に適塾に入門します。益次郎は、長州藩の兵制改革や近代的兵制の確立等、軍制改革に着手した兵学家として有名です。
長州藩の萩浜崎(現・萩市)出身の伊藤慎蔵は、嘉永2年(1849)、適塾の門を叩きました。越前大野藩洋学館の教師として尽力し、洪庵の子息も慎蔵の教えを請いました。その後、緒方洪庵の妻・八重の故郷の名塩でも蘭学塾を開き、維新後は政府に出仕し洋学教育に従事します。
箕作秋坪は、備中国阿賀郡下皆部村(現・真庭市)出身で、慎蔵と同年に適塾に入門します。洪庵の『扶氏経験遺訓』の刊行に尽力し、幕府天文方や蕃書調所に勤め、幕府の使節団の一員として渡欧しました。維新後は、森有礼や福澤諭吉等と日本最初の学会・明六社に参画しました。
三者三様の活躍を見せた彼らには、教育者という共通点がありました。本展では、師友等との交流に注目しつつ、彼らの教育実績を紹介したいと思います。

令和7年度 適塾特別展示 シリーズ生誕200年記念～その肆 大村益次郎・伊藤慎蔵・箕作秋坪

大村益次郎の親切に触れた 緒方洪庵の日記

「勤仕向日記」

緒方洪庵の最晩年の日記。奥医師として幕府に招かれ江戸に到着してから、死の3ヶ月前までの出来事が記されています。奥医師に加え西洋医学所頭取も兼帯した洪庵の激務の様子もうかがえます。江戸に到着した洪庵を大村益次郎等が出迎え、益次郎はその翌日も早朝から洪庵の世話をしたと書かれています。よほど嬉しかったのか、洪庵はその親切を妻・八重に手紙で伝えました。

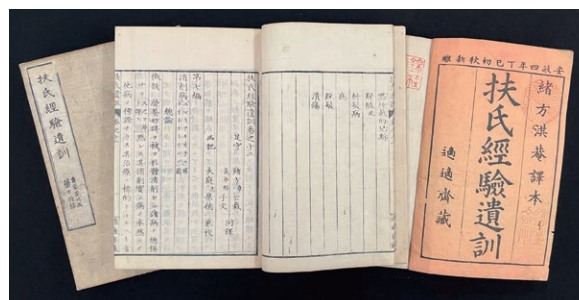


「勤仕向日記」(部分) 文久2年(1862)8月20日条
大阪大学適塾記念センター所蔵(緒方富雄氏旧蔵)

箕作秋坪がオランダに伝えた 緒方洪庵畢生の大著

『扶氏経験遺訓』(三冊本)

ドイツの医師・フーフェラント(C. W. Hufeland)が50年にわたる内科経験を記した『医学必携』(Enchiridion Medicum)のオランダ語訳を、洪庵が20年を費やして和訳したもの。全30巻を刊行するまでの5年間、箕作秋坪は始終その世話をしました。文久2年(1862)にオランダを訪問した秋坪は、三冊にまとめられた『扶氏経験遺訓』を、ライデン大学へ贈呈しました。その際、秋坪は敬意を表しつつ、日本の蘭学研究を紹介しました。本書のように日本に残る三冊本は貴重です。

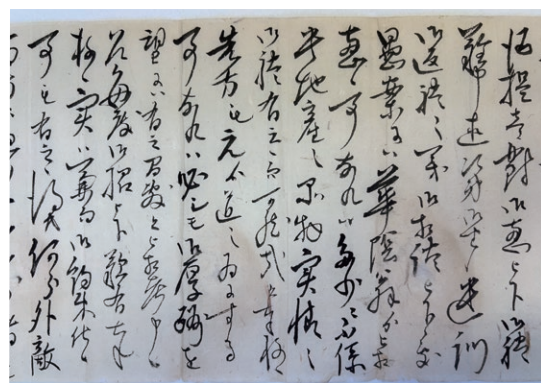


『扶氏経験遺訓』(三冊本) 安政4年(1857)
大阪大学適塾記念センター所蔵(中山沃氏旧蔵)

伊藤慎蔵、洪庵の教えを 適塾の友に伝える

「藤野升八郎宛伊藤慎蔵書状」

伊藤慎蔵は適塾同門の越前国坂井郡下番村(現・あわら市)の在村医・藤野升八郎と親しい交友がありました。二人は、書物等贈答品のやりとり、近況報告に加え、身の上相談することもありました。ある時、洪庵から贈られた『扶氏経験遺訓』の返礼について、升八郎は慎蔵に意見を求めました。洪庵は「道の為」(医術、学術のため)にしていることなのだから、たいそうな礼は望んでいないと、慎蔵は師の心の内を慮り返答しました。門弟間の交流が洪庵の教えを再認識させる機会となっていたようです。



「藤野升八郎宛伊藤慎蔵書状」(部分) 安政6年(1859) 12月14日付
大野市歴史博物館所蔵

◇表面の画像について

- ・緒方洪庵肖像 五姓田義松画 明治34年(1901) 大阪大学適塾記念センター所蔵(緒方裁吉氏旧蔵)
- ・緒方八重肖像 五姓田義松画 明治34年(1901) 大阪大学適塾記念センター所蔵(緒方裁吉氏旧蔵)
- ・大村益次郎肖像 国立国会図書館「近代日本人の肖像」より転載
- ・伊藤慎蔵肖像写真 『医譚』16号(杏林温故会、昭和18年[1943])より転載
- ・箕作秋坪肖像写真 津山洋学資料館提供
- ・大村益次郎「和蘭文典前篇会読帳」(部分) 年未詳 山口市歴史民俗資料館所蔵
- ・内山七郎右衛門宛緒方洪庵書状(部分) 安政3年(1856)11月2日付 大野市歴史博物館提供
- ・『明六雑誌』第8号(1874)より箕作秋坪「教育談」(冒頭部分) 人間文化研究機構国立国語研究所蔵

【関連展示】伊藤慎蔵生誕200年記念

「蘭学の牽引者 伊藤慎蔵」

場 所：大野市歴史博物館
開催期間：令和7年5月31日～6月22日
協 力：大阪大学適塾記念センター